

みどりの ニュースレター 7

21世紀 地球を、地域を、生活を、
持続可能な豊かさに

2006
No.158

特集：環境市民大解剖！ 2005年度活動レビューと2006年度活動紹介



特定非営利活動法人

環境市民

Citizens Environmental Foundation - since 1992 -
<http://www.kankyoshimin.org>

¥100

みどりの ニュースレター



No.158
2006年 7月号

Citizens Environmental Foundation



今月の表紙……

6月18日に開かれた第5回総会と2006年度のプロジェクト発表会の様子。当日は約60人が参加しました。はじめての参加者や企業関係者の姿もあり、環境市民のことを多くの人に知ってもらった機会になりました。

コレため! コレ、
ためしてみました。

毎月エコロジカルなライフスタイル・グッズを
スタッフが体をはって実践レポートします!



コレため! File no.12

生ごみを堆肥へ 自然のマジック!? コンポスト

文/ニュースレター編集部
久保 友美

「あ〜、もったいない」料理や食事のときにそう思うことは多いのではないのでしょうか? 気をつけていても出てしまうのが生ごみ。そんな生ごみを堆肥にできるすぐれものがコンポスト!

環境市民が発行した書籍『だいすき京都 環境市民の遊びかた 暮らしかた』の中で紹介しているコンポストの作り方にそって始めることに。用意するものは、プランターなどの容器と乾燥させた土のみ。「本当にこれだけで堆肥ができるのだろうか……」と不安になりつつも、野菜の切りくずや卵の殻を細かく刻んで入れてみました。臭いが強烈なのでは? と思っていたら意外にも無臭。また虫がわくこともありません。本の説明によると虫よけにお茶がらが効果的とのこと。3、4日すると生ごみが段々と小さくなってきたのが楽しくなり、朝起きるとコンポストへ直行して思いっきり混ぜるのが私の日課に。1週間もすると生ごみがほぼ見当たらない状態! まるで自然のマジックにかかった気分でした。

重さでいうと家庭ごみの約4割を生ごみが占めています。コンポストは、そんな生ごみの削減に一役買ってくれます!

環境のことを考えると、生ごみを出さないようにするエコクッキングなどが重要です。しかし、それでも生ごみが出てしまった場合には、できるだけ自然に近い状態で処理することが大事ではないでしょうか?

我が家では、コンポストでできた堆肥を家庭菜園に使おうと計画中! 生ごみが堆肥となり、また新しい植物の生命を生み出す……。自然のサイクルを身近で実感できる良い機会となりました。

CONTENTS

コレため!

生ごみを堆肥へ 自然のマジック!? コンポスト…02

特集: 環境市民大解剖! 2005年度活動レビューと2006年度活動紹介

…03-07

とれたて! 環境市民…09

イベントカレンダー

旬のぶちメモ

講演のご案内

…09

みんなでエコろう! 行事案内…10-11

地球のなかま…12

第12回【前編】命のゆりかごマングローブ そのユニークで豊かな生態

隔月コラム **青き星 碧い風**…13

第七回 熱帯雨林の心地よさ

みんな集まれ! わいわいひろば…14

7月のテーマ: 今年の夏の計画

1/ 環境市民…15

村中 梨砂さん

今月のありがとう…16

新入会員インタビュー・新入会員・寄付他

特集：環境市民大解剖！ 2005年度活動レビューと2006年度活動紹介

6月18日(日) ^{みやこ}京エコロジーセンター(京都市環境保全活動センター)にて環境市民の第5回通常社員総会を開催しました。そこで今回は2005年度の活動を振り返り、2006年度の環境市民が目指すものとは何かを特集しました。会員数の変動や財務データなども掲載して環境市民を大解剖！内容もりだくさんでお届けします。



2006年度型「環境市民」の進化 誰でも参加できるNGOに

2006年度も、環境市民は「日本の環境首都コンテスト」をはじめ、全国的な活動から地域実践活動まで、多くのプロジェクトに取り組みます。個々のプロジェクトの詳しい紹介は別の機会ですとさせていただきます。今月号の特集では、環境市民がどのようにプロジェクトを構築し、高めようとしているかに重点をおいて紹介します。

●2006年度に向けた課題

環境市民は2004から2005年度にかけて、ミッションの改定やプロジェクト主体の活動構築など、大きな改革を実施しました。それによって例年よりも多くのプロジェクトが活動ボランティアたちから発案されるなど、多くの成果を得ました。しかし、さらに向上するためには、以下の2つをはじめ、いくつかの課題が見えてきました。

- ◆多くのプロジェクトの中で、何が重点か、位置づけを明確にする。
- ◆遠方居住者や多忙で活動に直接参加できない人からも支持される活動を構築する。

これらの課題解決に向けた取り組みが、第5回通常社員総会で確認されました。

●多くのプロジェクトの中で何が重点か、わかりやすくする。

プロジェクトを、働きかけ対象や発展段階などによって、リーディングプロジェクトなど3段階に分け、重点を入れる活動を明確にします。また、各段階の要件を明らかにすることで、プロジェクトを高めるためのポイントも明らかにします。社会的な訴求では、リーディングプロジェクトを前面に押し出します。

○リーディングプロジェクト

継続的、かつ他セクターとの協働やネットワークでの実施。社会に働きかけ、変えていく力になる活動。毎年、成果について指標を明確にして報告する。

リーディングプロジェクトとして「日本の環境首都コンテスト」「日本版 SHOPPING for a BETTER WORLD 作成プロジェクト※」「びんビールでいこう キャンペーン」「モルディブ・プロジェクト」の4つに取り組みます。

○実行プロジェクト

定期的な市民への働きかけ。協働やネットワークよりは自主的な活動。社会啓発や意識づけの要素の強いもの。

または社会的な影響力をもつための調査・研究。

○インキュベート(揺籃)プロジェクト

内部学習やスタッフのスキルアップ的要素が大きいものの、将来的に意義のある活動へと具体化するための準備段階にあるもの。

●遠方居住者や多忙で活動に直接参加できない人からも支持される活動構築

環境市民には、「日本の環境首都コンテスト」やグリーン購入、グリーンコンシューマー活動など、全国で展開している活動もありますが、遠方居住者や多忙な人が参加しやすい活動づくりは、弱い領域でした。多くの人が環境市民を知る機会になり、共感をもってもらう活動として、以下の活動をリーディングプロジェクトとして進めていきます。

◇びんビールでいこう キャンペーン

市民・行政・事業者など多くの人が賛同し、個人でも、地域グループでも、様々なかたちで参加できる運動として実施します。特に全国の多くの消費者団体が取り組んできた「買い物袋持参運動」に続く運動として提案します。

この運動は、決して「ビールの消費を増やす運動」ではありません。ビールびんに限らず、缶やペットボトルなどのワンウェイ容器におされ激減しているリユース容器が、当たり前利用されることを目的にしています。「拡大生産者責任(EPR)」の強化など、環境に熱心な事業者が、有利になる条件づくりも視野に入れています。

◇モルディブ・プロジェクト

インド洋の島嶼国モルディブは、地球温暖化の影響で存亡の危機に陥っています。そこには私たち先進国に暮らす者の暮らしのあり方が、大きな影響を与えています。日本の市民に、地球温暖化問題の現状を知り、ライフスタイルを転換する機会を提供するとともに、連帯の思いを発展させ、モルディブへの太陽光発電機等の普及、当地へのエコツアーの実施などの活動に結びつけます。

※1989年に米国の経済優先度評議会(Council on Economic Priorities)という非営利団体が、環境だけではなく、社会貢献やジェンダー、マイノリティの雇用、軍需産業への関与などについて多角的に企業を評価した本。個人投資家が投資先を選ぶ際に参考にするための本として発行された。

環境市民の活動プロジェクト 2005-2006

新ガイド「環境市民の遊びかた暮らしかた」作成

「より多くの人に、そしてより広い地域で」

2005 『だいすき京都 環境市民の遊びかた暮らしかた』で提案しているグリーンコンシューマーとしてのライフスタイルを実践するための講座や第2章で取り上げた京都でがんばっているお店をめぐる「京のほんものエコツアー」など、本を多くの人に知ってもらうための活動を行いました。

2006 ガイドブックに込められている地域の魅力を再発見するというエッセンスは、京都だけでなく他の地域にも応用できます。自分たちの地域を見直すことで、もっと自分たちが住んでいる地域が好きになるのではないのでしょうか。また京都には、ガイドブックにはまだ取り上げていないたくさんの魅力が潜んでいるはず。今後はもっと他地域にも出かけて行って、より多く、そしてより広い地域でガイドブックを広めていきたいです。

取材協力：内田 香奈



京都自然めぐり 子どもと遊べる大人になろう

「幅広い交流を深めていきたい」

2005 ^{みやこ}京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センター）と共催でお金やエネルギーをかけずに、自然の中で子どもたちと一緒に遊ぶことのできる大人の育成を目的とした全10回の「自然を通じて子どもと遊べる大人になろう」を開催しました。この講座を通して、「一緒に感じて学ぶスタイルで、周りの人々にも環境を伝えていきたい」という感想もあり、目的に沿った内容になったのではないかと思います。

2006 昨年度行なったイベントを回数と内容と内容を絞って実施していきます。環境市民や京都グリーン購入ネットワークでの活動を通して、企業の方とのつながりも強まったので、今後は企業の方の参加が得られるように働きかけていきます。子どものいるお父さんたちにももっとたくさん参加してもらいたいです。

取材協力：堀 孝弘

みどりのニュースレター編集部

「ニュースレターのパワーアップに向けて」

2005 文章を書く上で重要なスキルだけでなくもっと自分たちを見つめ直そう！ということになり、活動をスムーズに進めるために作業工程を見直すチームとニュースレターのミッションや内容の充実に向けてマネジメント面を再考するチームの2つに分かれて、体制の刷新に向けて話し合っています。

2006 今春までに編集部の課題がおおかた見えてきたので、2006年はこれらの課題の改善に向けて実際に行動に移し、マニュアルの作成や拡大編集会議の実施などをしていきたいです。

ニュースレター編集部のモットーは「わくわくする誌面づくり」。体制刷新をすることによって、ニュースレターの内容面にもうまく作用していければいいと考えています。

取材協力：安江 晃子



日本のフライブルグを創ろう！

「全国に広まれ！ 首都コンテストの輪」

2005 春～夏にかけて、第4回のコンテストの振り返り、質問票の更新をし、9月から公募を始め、75自治体からの応募がありました。その後、質問票を送り、10人程のスタッフが分担して自治体を受け持ち、10月～翌3月までヒアリングを続け、質問票の各項目を得点化し、集計します。スタッフは学生が多いため、最初は緊張してヒアリングなどをしていますが、次第に頼もしい存在となっていていきます。

2006 6月から連続5回の『「日本の環境首都」を誕生させよう！ ヨーロッパに学ぶ環境のまちづくり』のセミナーを始めました。このセミナーを通して、第6回の首都コンテストを担ってくれるスタッフを増やしていけたらいいと思います。市町村合併で全国の自治体数が減りましたが、第4回の応募が75自治体で、第5回も75団体。これからはもっと多くの自治体に参加してもらうために広報にも力を入れていきたいです。

取材協力：風岡 宗人

環境市民にはたくさんの活動プロジェクトがあります。6月18日(日)の「プロジェクト発表会2006」では、それぞれのプロジェクトのメンバーが2006年度の活動予定を熱く発表！一緒に活動してくれるメンバーを募集しました。今回は8つのプロジェクトのメンバーにインタビューを行い、2005年度の振り返りと2006年度の活動について語っていただきました。(取材・まとめ/有川 真理子、久保 友美、安江 晃子) (文中敬称略)

環境小市民生涯学習講座

「環境と衣食住をマジメに楽しく学習する講座」

2005

地元で生産されたものを地元で消費する「地産地消」を合言葉に月1～2回のペースで開催しました。地元愛知県の八丁味噌蔵や造り酒屋を見学したり、実際にいただいてみたり。環境市民の会員だけでなく活動はしていない人でも気軽に参加できる企画にすることを目指しました。

2006

「他の団体とコラボレーションするのもおもしろいのでは」と考えています。地元の団体とつながりを持ち、地域の方にその土地の誇りに思えることに気がついて欲しいです。また、そこで関った方たちにはぜひ環境市民の会員になっていただきたいです。いろんな方とのつながりを増やしていきたいです。

取材協力：鶴岡 朗

電子かわら版チーム

「さらに発信力のあるウェブサイトを目指して」

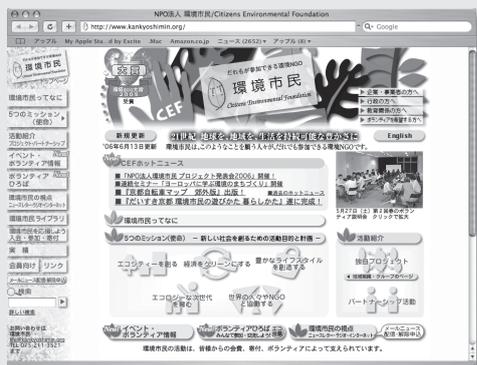
2005

2005年度は環境 goo 大賞の大賞を受賞することができました。これは環境関連のウェブサイトを表彰するもので、2004年は奨励賞だったため、2005年度は審査員からいただいたポイントを徹底して改善していきました。その結果、ユーザビリティや双方向性の高いサイトとなり、「市民参加型のブログシステムの導入と運営の成功例」として評価されました。

2006

今後は、ウェブサイトの英語ページの作成を進め、各プロジェクトと連携したサイトづくりや社会の話題に関連したタイムリーなトピックスを積極的に取り上げていくことなどを考えています。

取材協力：有川 真理子



京都を自転車先進都市にしよう

「京都を自転車先進都市に」

2005

京都自転車マップまちなか版と郊外版の二つの出版物を発行しました。作成のためにたくさんのコースを実際に走りました。遠くは三重まで！それを今後はデータにする作業もメンバーで行ないました。現在まちなか版は5000部を発行しています。約3年という年月をかけてみなさんの手にとってもらえて本当によかったです。

2006

今後は、自転車マップで紹介したコースを走る企画をたてたり、マップを置いてもらえるお店を増やすことが目標です。また、自転車先進都市をめざし、自転車マナーをよりよくするため駐輪場に注目。現状を調査して、より有効な使われ方を行政や自転車を使う地域の方に提案したいと考えています。昨年度に引き続き勉強会も行っています。

取材協力：北池 みわ



エコファイター・SKIP たまてばこ会

「環境共育 ～ 子どもの環境をエコ化する！～」

2005

地域のイベントなどで行なうエコファイターショーと、「STOP 地球温暖化カルタ」や「みどりのえかきやさん」といったSKIPの教材を使った子どもたちとのワークショップにプラスして、2005年度からはメンバーのスキルアップのため内部勉強会「あけてビックリ！ SKIP たまてばこ会」を毎月1回ずつ開催しました。

2006

エコファイターショーは今まで依頼に頼ってきたため、2006年度からは自分たちで作ったシナリオを売り込みにいったりもしようと思っています。また、子どもたちの中から環境リーダーを育成する新企画「君もエコファイターになろう」のイベントをこの夏に開催予定。本格的なスタートは2007年度からになります。

取材協力：金川 達也

行政・企業とのパートナーシップ活動

売る側が変われば、買う側も変わる「環境マイスター研修認定制度推進活動」

環境市民はこれまでもさまざまな自治体や企業とのパートナーシップ事業を展開してきました。2005年度にもいくつかのパートナーシップ事業が行われましたが、その中でもこの山形県、和歌山県で実施した「環境マイスター研修認定制度推進活動」は、はじめての取り組みでした。

●環境マイスター制度で グリーンコンシューマーを増やそう！

環境マイスターは店頭で正しい環境情報を消費者に伝えてくれる販売員のことです。商品を購入するとき、正しい環境情報を消費者が持っていないと、あやふやな環境情報より品質や価格といった情報の方が最優先になってしまい、なかなかグリーンコンシューマーが増えません。しかし、環境マイスターから店頭で正しい環境情報を手に入れられることで、消費者の商品選択になんらかの変化を与えることができます。

環境マイスターが増えればグリーンコンシューマーも増える。今回の事業では、お客さんから相談を受けることの多い、自動車販売業者と家電販売業者に対して環境マイスター研修を実施しました。両県、両販売業者合わせて約130人の参加者がありました。環境マイスターの認定を受けた人は環境マイスターのワッペンをつけて店頭に立っています。買い物に行って、ワッペンをつけた人を見つけたらぜひ声をかけてみてください。

●「環境マイスター研修認定制度推進活動」の 反響とこれから

研修実施後に参加者にアンケートをとったところ、「有



お店に掲示する看板（地元産木材使用） ワッペンのデザイン



和歌山県・家電製品販売研修の様子

意義だった」という結果がほとんどで「この制度を続けて欲しい」という要望も多くありました。また、常に変わっていく環境情報を環境マイスターがいつでも手に入れられるよう、専用のホームページをつくることも検討されています。

予想以上に好評だったので2006年度も続けていきたいと検討しています。

取材協力：環境市民代表理事 杵本 育生

事務局 長期戦略を実現する事務局をめざして

環境市民の原動力の基ともなっている事務局。事務局とはどういったものなのか？事務局の内田香奈さんにお話を伺ってきました。

事務局会議は、基本的に事務局長を含め事務局スタッフ4人で週1回のペースで行っています。ここでは環境市民の運営やプロジェクトの状況などさまざまなことに関して報告・話し合いが行われています。日頃は個々に多忙のため、事務局内で情報共有することは重要です。また自分が抱えている課題についても他の人の意見を聞くことで、別の観点を発見し、課題改善に向けて光が見えてくることもしばしばです。定期的話し合いを持つことで、事務局員それぞれの考えや

思いへの理解が深まります。

これまで、つつい目の前にあることに追われがちで、環境市民のミッションや活動の方向性といったような団体の根幹に関するところについて、事務局全体で認識・確認することがなかなかできないでいました。そのような状況を打破するために、今は1年や半年といった長いスパンで目標を決めるようにもなりました。そして、一定の区切りが来たら活動の振り返りやミッションの確認などもしています。今後も環境市民へ携わっているたくさんの人々の声を反映できるような事務局にしていけたらいいなと思います。

取材協力：事務局 内田 香奈



環境市民にはもっと会員が必要！

◆会員増減を分析しました

2005年度は、新たに86人に入会していただきました。2003年(75人)、2004年(78人)に比べて、わずかですが増えています。月別にみると、図1のように、6月は総会とプロジェクト発表会、年度後半には、事業が集中し環境市民をアピールする機会も増えたことから、入会者数が増えていると思われます。

しかしながら、会員数全体で見ると横ばいです(図2参照)。毎年、入会者数よりやや多い退会者が出ています。新規入会者を増やすとともに、長く会員として活動を支えてくださっている会員のみなさんに対しても、納得し、継続してご支援いただけるようにすることが課題となっています。

(文/事務局 内田 香奈)

◆会費は全体収入のわずか約5%

環境市民の財政規模と同じ5000万円以上1億円未満のNPO法人は日本ではわずか約3.2%^{注1}。約6割は500万円未満で、環境市民は日本のNPOの中では規模の大きな部類に入ります。だが、これで安心してはいけません。図3をみると、会の活動のため制約なく使える「会費」が全体にしめる割合はわずか約5%。支出をみると、自主活動に使った事業費は約24%。環境市民のミッションを達成すべく自主的に行う活動のために使える財源は決して十分ではなく、受託事業を受けないと、自主活動の発展や、活動を支える事業所とスタッフを維持するのは難しい状況です。

NGO先進国である欧米では数百億円単位の財源をもつNGOが存在します。日本でもユニセフ協会など1億円以上の財源を持つ団体もありますが、そのうちの約半数は海外NGOの支部が占めています^{注2}。この理由としては、海外在住の会員会費支援があることやそれらの団体が資金調達にたけていることなどが考えられますが、日本の市民セクターが力をつけていくためにも、日本で生まれた環境NGOである環境市民がさらに会員を拡大し、ミッションを達成していくことが重要です。

(文/ニュースレター編集部 有川 真理子)

注1) 日本NPOセンター「2004年NPO法人データ分析」より。回答のあった5894法人中の数字。

注2) 参考(財)国際開発センター「我が国における国際協力NGO等によるファンド・レイジング方法に係る調査」(2006年3月)

図1 2005年度月別入会者数推移

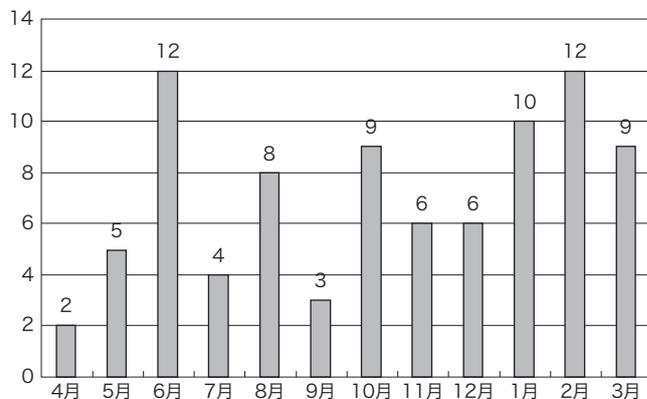
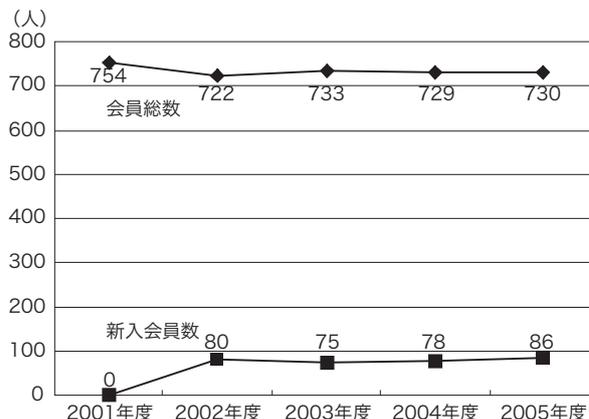
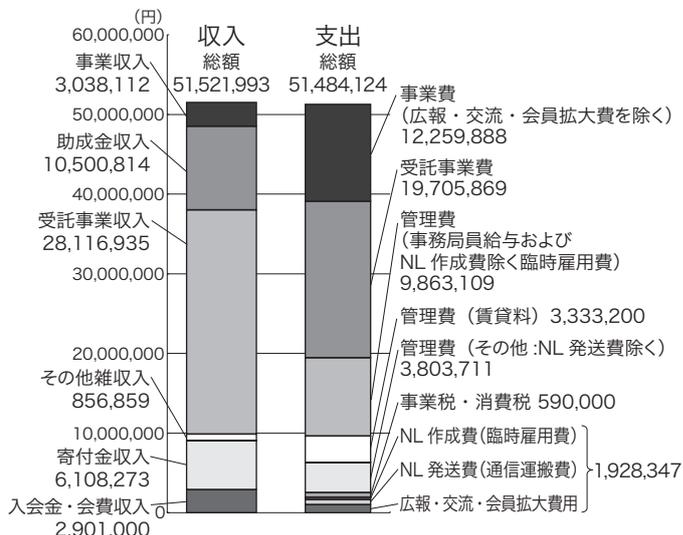


図2 2001～2005年度会員総数、新入会員数推移



注) グラフでは、NPO法人化(2002年3月)以降のデータを中心に報告しています。任意団体時代から通してみると会員数は2001年夏に、ほぼ1000人で最高人数になっていました。但し、その時点では、会費の長期滞納者も含まれていました。法人化を機に、長期滞納者の登録を外すなどの対応を行ったため、2001年度末(2002年3月31日)時点で754人という会員数になっています。

図3



理事会 さらなる理事の参画で戦略のある活動を

2005年度は、4月にリトリート（理事合宿）を行いました。ここでは、環境市民の活動の課題や多様な可能性が明らかになりました。時間をかけてこれらを話し合う機会がなかったため貴重な時間となった。だされたアイデアはその後の理事会やステアリングコミッティー^{*}、事務局の活動の一部にかかれています。

また、7月には理事6名と事務局スタッフ3人からなるステアリングコミッティー（執行機関）を設置し、中長期的な活動戦略を持てるようになりました。今、ここでは会員拡大や2006年度の立った事業が考案されている。

●意見表明を積極的に

今後は、環境NGOとして意見表明を社会に対して積極的に行う必要があります。愛知万博の開催などに対しても意見を出すことで、環境NGOとして、市民の考え方の一つの指標を出すことができたのではないのでしょうか。

●財政、寄付の対策

財務面の課題については、月に1回は会計データを把握し、コスト削減や資金繰りの対策をとっていく必要があります。

また、寄付を集める体制をつくっていく必要もあります。モルディブ・プロジェクトなどを活用し、社会貢献の一環として寄付先を探している企業などにあた

ってみることなどが考えられます。環境市民はネームバリューもあがってきており、実績もあるため、企業からの支援をもとに活動を活性化させていければと考えています。

●理事のさらなる参画

いずれにしても、さらなる理事の参画を図っていく必要があります。そこで、リトリートで提案された、「月に何時間は環境市民の活動にかかわる」といったコミットメントラインの策定をしてみてもはどうでしょうか。また、今後も理事がじっくりと団体の運営について話し合う場を年に1回ほど持てるとういのではないかと考えています。

取材協力：理事 上田 正幸

^{*}ステアリングコミッティー：具体的な事業について検討する有志理事および事務局で構成される機関。詳しくは2005年12月発行の「みどりのニュースレター」No.151を参照。



理事会の様子

お知らせ

先月号に同封した「NPO 法人環境市民理事会（第4期第2回（通算27回）簡易報告）」に誤りがありました（アンダーラインの部分）。お詫びの上、訂正させていただきます。

<訂正箇所>（抜粋）

（誤）

●討議 / 審議・議決事項

(1) 鶴岡理事からの提案についての議決

（中略）

・地域組織名を「環境市民・〇〇」から「環境市民〇〇事務所」とする。

【議決内容】環境市民・東海を「環境市民・名古屋事務所」、環境市民・滋賀を「環境市民・滋賀事務所」と変更する。

新たな組織発足の際はその都度呼称を検討する。

（以下略）

（正）

●討議 / 審議・議決事項

(1) 鶴岡理事からの提案についての議決

（中略）

・地域組織名を「環境市民・〇〇」から「環境市民〇〇事務所」とする。

【議決内容】環境市民・東海を「環境市民 東海事務所」、環境市民・滋賀を「環境市民 滋賀事務所」と変更する。

新たな組織発足の際はその都度呼称を検討する。

（以下略）

ボランティアひろばに参加しよう

環境市民のウェブサイト「ボランティアひろば」では、会員によるブログを紹介しています。会員であればどなたでも環境に関するテーマを発信することができます。申し込み、ご質問は kawara@kankyoshimin.org まで。ぜひ一度ご覧ください。「ボランティアひろば」の URL は <http://kankyoshimin.u-me.jp> です。



～環境市民の今、そしてこれからの活動をお知らせします～

とれたて! 環境市民



連続セミナー「ヨーロッパに学ぶ 環境のまちづくり」

6月7日、池坊短期大学で連続セミナー「ヨーロッパに学ぶ環境のまちづくり」(第1回)が開催された。全5回のセミナーでヨーロッパの先進事例を学び、日本のまちづくりについて考えることを目的としている。

環境市民の枚本代表による1回目のセミナーでは、ドイツのエッカーンフェルデの商店街を見て、参加者が日本の商店街にないものを見つけることから始まった。自転車専用レーンや商店街のバリアフリー化などの政策やごみの出ない朝市について説明があった。また、路面電車を街中に巡らせたカールスルーエや公共交通のバリアフリー化を充実させたフライブルクの紹介もされた。その後、フライブルクで行われているパーク&ライド、ミュンスターでの自転車政策、ハムでの「環境・余暇地図」やエコロジー総合コンセプトに基づく幼稚園などの具体的事例が紹介された。

約70名人の参加者は、真剣な眼差しでドイツ国内のユニークな取り組みについてセミナーを聞いていた。

今回のセミナーで始まった連続セミナーではイギリス、ス

ウェーデン、イタリアのまちづくり、最後に日本の環境首都コンテストの醍醐味について学んでいく。このセミナーが未来のまちづくりを考え、その実現につながることを期待する。

(文/ニュースレター編集部 寺西 孝一郎)



ミーティング&イベントカレンダー

※「●」は京都事務局までお問い合わせ下さい。

1日(土) 東海 環境市民 nagoya cafe 午後7:00から9:00(P11)

3日(月) 環境共育SKIP 午後7:00から

ニュースレター編集部 企画会議

7日(金) 電子かわら版 午後7:00から

8日(土) 第2回 未来創造塾 午後1:00から4:30(P10)

8日(土)～9日(日) みつたまプロジェクト合宿(P10)

11日(火) 東海 ぼとらっくばーてい 午後7:00から9:00(P11)

ニュースレター編集部 編集日

自転車チームチャリ民 午後7:00から

14日(金) 京都エコ暮らし応援プロジェクト 午後7:00から

19日(水) 第5回「日本の環境首都」を誕生させよう!

ヨーロッパに学ぶ 環境のまちづくり 午後6:30から9:00(P10)

自然住宅研究会 午後6:00から9:00

24日(月) ニュースレター編集部 校正日

29日(土) 滋賀 アートフェスタ中町のフリーマーケットへの参加(P11)

エコロジーな住空間工作教室ホリアースクール 午後1:00から3:30(P10)

第3回 未来創造塾(P10)

31日(月) ニュースレター発送日 午後1:00から

7月^{'06}

旬のメモ

あなたの心に季節の窓を。

旬の話題と暮らし方のヒントを

お届けします。

● VOL・13 ● オクラで健康な夏を……

原産地はアフリカで、「オクラ」という名前は英語からきているそうです。とても古くからある野菜で、エジプトでは2000年以上前から栽培されていて日本には江戸時代末期の頃に伝わりました。オクラは体にいい栄養素をたくさん持っていて、特徴であるネバネバには腸の調子を整え、コレステロールも減少させてく

れるアラバン・ペクチンといった食物繊維が含まれています。特にペクチンには血糖値の上昇を抑えてくれる作用があります。また、そろそろ気になる夏バテに効くカルシウム・鉄・カロチン・ビタミンCも含まれていて、栄養豊富!

(文/ニュースレター編集部 安江 晃子)

講演のご案内

※一般参加はできませんが下記の講座にも講師を派遣しています。詳しくは京都事務局へお問合せください。

□ 7月28日(金) 交野市/「地球温暖化」



みんなでエコろう! 行事案内

問合せ・申込み
環境市民
<http://www.kankyoshimin.org>
 【TEL】 075-211-3521
 【FAX】 075-211-3531
 【IP 電話】 050-3581-7492
 【E-mail】 life@kankyoshimin.org

連続セミナー「日本の環境首都」を誕生させよう! ヨーロッパに学ぶ 環境のまちづくり

2001 年度より毎年開催している「日本の環境首都コンテスト」も第 6 回目を迎えます。今回の連続セミナーでは、先進的なヨーロッパの環境政策を学ぶことで日本の自治体にも応用できる点を学び、またその中で当コンテストの意義や果たすべき役割を皆さんと共有したいと思います。細かい知識は不要。みなさんのご参加をお待ちしております!(このセミナーは全 5 回連続のセミナーです。第 4 回までを好評のうちに終了しました。)

【第 5 回】 「日本の環境首都誕生をめざして ～ コンテストの醍醐味～」

これまでのヨーロッパの 4 か国の取り組みを踏まえて、今回は日本の自治体に焦点を当て、日本の自治体の先進的な取り組み事例を紹介し、持続可能な地域社会を創る要件について考察します。併せて、日本の環境首都コンテストの仕組みと取り組みを紹介します。

と き : 7 月 19 日 (水) 午後 6:30 から 9:00
 講 師 : 環境市民 代表理事 枚本 育生 氏
 と ころ : 池坊短期大学 美心館 42
 (京都市下京区四條室町鶏鉾町)
 定 員 : 100 人
 参加費 : 各回 環境市民会員および学生 500 円、
 非会員 700 円

申込みの際は、お名前、電話番号、所属、会員 or 非会員、参加を希望されるセミナーの回をご記入の上、下記のメールアドレスか環境市民京都事務局まで FAX にてお申し込みください。

申込先アドレス : ecocity@kankyoshimin.org

未来創造塾

環境問題って、考えるほど暗くなりますね。また、環境活動も「〇〇は禁止」、「□□はやめましょう」と言った我慢大会のように思っている人もあります。一方で、様々な課題解決のための活動があり、「こんな取り組みや仕組みが広がれば、未来は明るいかも」と思えるものもあります。「未来創造塾」は、各地の様々な活動事例や先進的な制度などを紹介し、次の社会に何が必要か、希望を見つけ出すための問題提起をしていきます。

第 2 回 「反原発でなく、脱原発のビジョン?」 — エネルギー問題の明るい展望?—

原子力発電について、安全性の議論を始めると、立場によって意見がまったく違い、多くの対立を生み出します。また「温暖化対策のためには原発は必要」という人もいます。では、原発に頼らなくても、安定的に電気が得られ、温暖化も防ぐことができないものか。ここでは脱原発に向けた様々な事例情報を提供します。

と き : 7 月 8 日 (土) 午後 1:00 から 4:30
 と ころ : 環境市民事務局
 講 師 : 堀 孝弘 (環境市民事務局長)
 参加費 : 無料
 定 員 : 20 人 (定員になり次第締切)
 申込み : 必要

第 3 回 「ごみの発生抑制と拡大生産者責任導入への課題」

ごみ問題というと、地味なテーマのように思う人もあるかもしれませんが、私たちのライフスタイルだけでなく、ものづくりや使用後の処理まで工業社会のあり方そのものを問う実に奥深い問題です。ヨーロッパの対策・対応もお伝えして希望・展望をもっていただきます。

と き : 7 月 29 日 (土) 午後 1:00 から 4:30

第 4 回 「欧州スーパーの売り場から学ぶグリーンコンシューマーが開く未来」

と き : 9 月 9 日 (土)

第 5 回 「自然の保護と保全の違い 自然のネットワーク・残し方の基本」

と き : 10 月 7 日 (土)

第 6 回 「近自然、河川工法その他自然再生の事例・海外と国内から」

と き : 11 月 11 日 (土)

※第 7 回以降は検討中。原則毎月第 2 土曜日の午後 1:00 から 4:30、定例で実施します。

子ども向け環境教育Webサイト制作プロジェクト (みつたまプロジェクト) 合宿

と き : 7 月 8 日 (土) から 7 月 9 日 (日)
 と ころ : アースガーデン (京都府南丹市美山町)
 ※詳しくは事務局までおたずねください。

考えてみよう、自分の家、自分の夢 エコロジーな住空間工作教室 ホリデースクール開催! (全 2 回)

日本の風土は太陽の光、自然の風、雨の水に恵まれて本来は人間の暮らしやすいところです。

ところが現在の私たちの暮らしは、多くの照明や、エア

コン、水道水を必要としています。身近な自然を大切にしたいエコロジーな住まいを親子で考えてみましょう。

と き：第1回 7月29日(土) 午後1:00～3:30

第2回 8月6日(日) 午後1:00～3:30

ところ：京エコロジーセンター

(京都市環境保全活動センター)

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13

TEL 075-641-0911 FAX 075-641-0912

京阪電車「藤森駅」下車西へ徒歩5分

第1回「自然住宅を考えてみよう」

世界には、その土地の気候にあわせた、さまざまな家のスタイルがあります。

わたしたちの暮らす地域にはどんな家があるか、どんな家をつくれれば環境への影響が少なくすむか、みんな考えてみます。

第2回「つくってみよう、君の家」

地域の気候や風土にあったエコロジーな住まいを親子でデザインし、実際に模型をつくってもらいます。

講師：岡本 成貴 (一級建築士事務所 SOUND 主宰)

定員：親子15組

2回連続参加をお願いします。

参加費：親子ペア1組2回分、会員1,500円、

一般1,800円

(材料費込、つくった模型はお持ち帰りいただけます)

申込み：必要

締め切り：7月27日(木)

問合せ・申込み

環境市民 東海事務所 [TEL/FAX] 052-521-0095
[IP 電話] 050-3604-6182
http://www.kankyoshimin.org/tokai [E-mail] tokai@kankyoshimin.org

環境市民 nagoya cafe

運営に関するミーティングを行います。どなたでも参加できます。ぶちボランティアも歓迎します。

お気軽にどうぞ。

と き：7月1日(土) 午後7:00から9:00

ところ：環境市民 東海事務所

参加費：無料

申込み：必要

ぽっとらっくばーてい

マイカップと一品を持ち寄り、楽しいひと時を過ごします。ぜひお友だち(まだ会員でない方)を、お誘いいただきご参加ください。

屋下がりにお立ち寄りいただいてもOKです。

と き：7月11日(火) 午後7:00から9:00

ところ：環境市民 東海事務所

参加費：無料

申込み：必要

KIDSアドベンチャーエコツアー 長崎へGO!

公共交通機関を利用して、日常生活の中で環境に配慮した生活を実践します。旅を通して「生きる力」を育てます。

ひと夏の体験が少年を変える! 今年の夏は少しでも冒険してみませんか? 「ハウステンボス」で環境に配慮したまちを学びます。路面電車のまち長崎をカラダゼンシンで体感します。

名古屋-佐世保(長崎) 往復夜行高速バス(車中泊2泊)

と き：2006年8月1日(火)～5日(土) 4泊5日

ところ：佐世保ハウステンボス 長崎市内

宿 泊：長崎カトリックセンターユースホステル(2泊)

車中泊2泊

参加費：39,800円

往復の交通費・2泊の宿泊費・9回分の食費・保険・写真代・「ハウステンボス」の入場料金を含む。

定員：15人(参加資格：小学生) 応募多数の場合抽選申込み：お電話にて仮予約後、電子メール・FAX・お葉書にて、お名前(参加者・保護者)・年齢・連絡先を明記してください。



2005年KIDSアドベンチャーエコツアー 紀伊半島縦断 四国へGO!
和歌山から徳島へ向かう船上にて

問合せ・申込み

環境市民 滋賀事務所 [TEL] 077-522-5837
[E-mail] cefshiga@kankyoshimin.org

アートフェスタ中町のフリーマーケットへの参加

公大津中町商店街ではフリーマーケットとアートフェスタ中町が行われます。道路を利用してフリーマーケットが開かれ、空き店舗を利用してさまざまな芸術の発表会が行われます。午前中に行われるフリーマーケットのお手伝いに行きます。

と き：7月29日(土) 午前10:00から12:00

ところ：大津市中町商店街

参加費：無料

申込み：必要

地球の なかま

地球に暮らす生き物との出会い
センスオブワンダーで心豊かに

センスオブワンダー...
アメリカの作家であり、海洋生物学者でもあったレイチェル・カーソンが、
著書「センス・オブ・ワンダー」の中で伝えた自然を感じる感性

第12回 【前編】 命のゆりかごマングローブ そのユニークで豊かな生態

文／ 荒川 共生 (アジアボランティアセンタースタッフ)



?

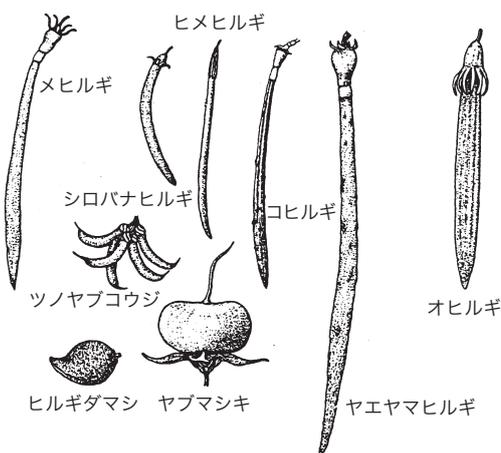
1日
2種



空にむかって伸びる「直立根」



3種



3
種
子

種子のいろいろ

汗

野



リーフモンキー

ISOを
か
巻

環境市民代表理事 本育生

環境市民代表理事 本育生

3冊

98冊

2冊

30冊

1冊

4冊

5冊

環境市民代表理事 本育生

8

巻

第七回

熱帯雨林の心地よさ

文・写真／環境市民代表理事 本育生

連載

青き星 碧い風

この連載の奇数回では、世界や日本の豊かな自然を描き、偶数回では日本社会や NGO への提案を載せていく予定です。

みんな集まれ!

わいわいわ ひろば

7月のテーマ:

今年の夏の計画

ボランティア、海に山に川辺、まちのお祭り、子どもと虫捕り、サイクリング、エコクッキング……この夏どんな過ごし方をしますか? 夏の計画、楽しみにしていることを募集しました。

あなたと
つくる
ページです

環境市民として水を大切に使用します!

環境市民会員としては「5つのミッション」に賛同・参加し学びたいです。「日本のフライブルクを創ろう!」、「モルティブ・プロジェクト」に興味があります。また、自宅に雨水タンクを設置すること。自宅の狭い庭を西洋風に改造して1年半が経過しました。1階はツルバラとゴールドクレスト、2階のベランダや窓辺にはテラコッタを取り付け、ミニバラとハーブを中心に、約150鉢の花木を育てています。「水やり」にはお風呂の残り湯(ろ過したもの)を使用していましたが、雨水と残り湯の両方を利用できるタンクを2階に設置して、自然の法則に基づいた落差による簡易散水器を製作中です。この夏は、もっと「水を大切に使用」したいと考えています。(亀井 泰裕さん/本会会員)

踊るあほうになる!

夏といえば、私の住む徳島では阿波おどり!「踊るあほうに見るあほう」というお囃子で知られますが、私はもっぱら見る方。観光に来られる方の多くも見る側かと思いますが、「にわか連」といって、阿波おどりの名人たちがその場でほどきをし、一緒に踊ることができる制度を使えば、いきなり来た人でも踊れるようになっているのです。私も今年は踊ってみようかな。

(P.N. 島 / 本会会員)

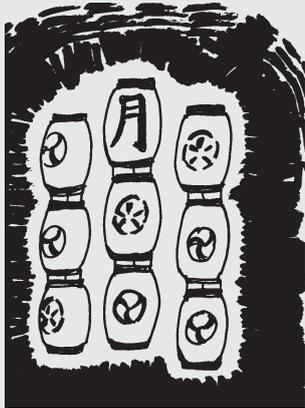
地味に楽しむ

最近、認知症を抱える祖母の家の側に移り住み、母とともに祖母の介護にあたる生活に入りました。そのため夏に向けて計画を立てる余裕などありませんでしたが、祖母宅でゆっくりと夏の日々を過ごしたいと思います。漫画の「サザエさん」にあるような昭和20~30年代の暮らしに憧れています。お年寄りの時間はあの時代のままと感じがします。朝は庭の草木に水をやり、昼間は簾で薄暗くした部屋の中、昼寝する祖母の傍らで読書、夕方になれば打ち水をし蚊取り線香をたいて素麺や豆腐の生姜あんかけの夕飯といきたいです。銭湯も欠かせません! 祖母が老人ホームに短期入所中は母とお出かけ。普通列車で京都の隣の滋賀の小さなまちを訪ねてみたいです。滋賀のまちは北へ行くほど田舎や山の緑が多くなり茅葺き屋根も見られます。一度ゆっくりその緑の中を歩いてみたいと思っていました。考えれば地味な楽しみです。しかし、いつも母や祖母と一緒にではつまらないので、どこかへ連れて行ってくれる彼氏を募集! とともに鴨川縁りに座って川の流れを何時間でもボーッと眺めてくれるような人がいいです。実はこれも今年のひそかな夏の計画です。(P.N. なのりん / 本会会員)

京都の祭りを極める!

夏といえばお祭りです。まず7月には祇園祭があります。町中に祇園囃子が響くと、「ああー、夏だー」と思う私です。ほとんどひと月楽しめるお祭りなので、まず7月は退屈知らずです。

下鴨神社の御手洗祭もお気に入りです。暑い時期に涼しい清らかな流れに足をつけて、下鴨神社の中にある川を渡るのが楽しみなのです。



8月になると、五条通り界隈の陶器祭と六波羅蜜寺の万灯会があります。その他にも、先祖を送るお祭りが一杯あるので、どれに行こうと迷います。生まれてからずっと京都にいるくせにまだ行き尽くしていないんですね。その内に全部行けるかな? 今年はどれを重点的にまわるかな。

(千葉 有紀子さん/本会会員)

9月号では、環境市民のWebサイト「ボランティアひろば」で実施している「エコ投票」の結果をまとめてご紹介します。「エコ投票」は、たとえば「外食で割り箸が出てきたとき、どう思いますか?」などの共感を感じるものから、「あなたが今季節に、最もおいしいと感じる野菜は?」などの季節に応じたものまで、様々な質問を投げかけ、4~5択の選択肢に回答していただくというものです。環境市民のWebサイトの閲覧者がどんな考えやライフスタイルを持っているのかがわかっておもしろいですよ。どうぞお楽しみに!

読者の皆さんとのコミュニケーションを通じてよりよい紙面づくりをめざしています。ニュースレターへのご意見、ご感想もドシドシお寄せください。ニュースレター編集部まで、右記の方法でお送りください。

お便りコーナー

みどりのニュースレターへのご意見、ご感想を随時掲載します。

6月号は、環境、労働、人権、教育(食育)と幅広い対談で共感する部分が多々ありました。現在の労働分野では正規でなく派遣・パートなど生活が不安定な労働者が多すぎます。また、第1次産業の中の小規模な農・林・畜・漁業者の多くが破壊されているのは今後の日本にとって重大な危機を迎えるのではと危惧する次第です。(大久保 道夫さん/本会会員)

ニュースレター編集部まで、メールかFAX、郵送でお送りください

● E-mail ●
newsletter@kankyoshimin.org

● FAX ●
075-211-3531

〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル 呉波ビル3階
NPO 法人環境市民 みどりのニュースレター編集部 宛

環境市民のウェブサイトからも投稿できるようになりました!

●環境市民ウェブサイト URL <http://www.kankyoshimin.org>
《トップページ》→《ボランティアひろば》→《掲示板一覧の「みんな集まれわいわひろば」》と順にクリックしてください。

— かんきょうししみんぶんのいち —

環境市民の会員を紹介します

第13回 村中梨砂さん

2005年10月〜2006年2月まで、地球環境基金のインターンシップ生として、主に環境首都コンテストを中心として、エコシティー研究会の活動にかかわる。

聞き手・撮影
ニュースレター編集部 千葉有紀子

□ 数は決して多くはない。いつも物静かだが、話をちゃんと聞いていて、微笑んでいる。目が印象的な人だと初対面の時思った。その瞳の奥には強い意志があったのである。

◆イギリスの大学院に行きたい！ —— 一年間英語漬けの日々

岡山大学に通っていた頃、アメリカのCO₂の排出権取引の話題が挙がっていた。環境と経済で卒業論文を書きながら「もっと勉強したい！」という気持ちがあわさってきいてきた。アメリカでなく、排出権取引を始めたイギリスだと、イギリスの大学院進学を決める。「英語ができないと行けない。勉強するしかない」。3年次ではやばやと単位を取り終え、故郷の宮崎に帰り、独学で英語を勉強する日々を一年間送る。

一日12時間以上勉強したという。その甲斐があつて、ブラッドフォード大学の大学院、環境科学学部・持続的開発学科に進学する。念願の大学にはいったものの、授業についていくのはなかなか大変だった。

「内容を理解するのが精一杯で、踏み込んだところまでいけなかった気がする」という。「自分とは国も宗教もなにもかも違う人たちと一緒に勉強できた。本当に行つて良かった」。一軒家をシェアして住んだり、いろんな経験を胸に「さあ、次はどうしよう？」と考え始めた頃、

環境NGOの活動に興味を持つようになった。

◆環境首都コンテスト——自治体の環境政策

「日本に帰って何をしよう？」帰国を前にして、名残を惜しむようにヨーロッパ旅行を楽しみつつも、次を考えていたとき、インターネット

女に二言はない！ 夢は絶対かなえます！



トで「環境NGOでインターンシップ」を見つけた。「自治体の環境政策にNGOが働きかける活動があるんだ」と興味を持ち、即インターンに応募した。日本に帰ってから面接を受け、10月からインターンとして、週3日10時から5時まで環境首都コンテストにどっぷりの日を5か月続けた。「環境首都コンテストの作業は、最初は言われるままにこなしていただけだったが、だんだん分かってくると、動きたいよう

に動けるようになってきた。自分の言ったことが実際に形になるのも嬉しい。なによりいいプロジェクトに参加させてもらった」。

◆海外青年協力隊でサモアへ —— 尽きせぬツバルへの思い

インターンも終わりに近づくと「次はどうしよう」と考え始めた。就職活動もしたが、「企業があくまで利益が第一、環境への取り組みはその次」という考えに共感できなかった。ひょんなことから海外青年協力隊で「サモアで環境教育」という募集があることを知る。「これだ！」と思い、試験を受けて合格し、来年にはサモアに行くことになった。実は大学院で、サモアと同じ環太平洋の国「ツバル」の海面上昇について研究していたという。ずっと学生の頃からツバルに憧れていた。そのツバルを知ったのは写真集を見たのがきっかけで、その憧れの写真家の方ともこの春に話できたそうだ。お昼どきになったら海に行つて魚をとって、そのまま海の中で食べる人もいるような、なんとも自然とびっぴり寄り添った生活のようだ。

「将来、どの国で生活するのかまだ決めてませんが、一番自分に合う場所を探し、環境教育に携わっていききたいです」。いつも、意志を強くもって、まっすぐ自分の夢に向かって進んでいく、そんな人である。

編集後記

【編集部】(五十音順)
有川 真理子 風岡 宗人 久保 友美
鈴木 郁 千葉 有紀子 寺西 孝一郎
羽野 和幸 安江 晃子 山形 七日
藤本 芳一 (デザイン・レイアウト)

編集を終えて……
特集を通して、いろいろなプロジェクトの活動、そしてそれを支える方々の思いに触れることができ、私もますますやる気がわいてきました！ どのプロジェクトも今後の展開が楽しみなものばかり。私も夏の暑さに負けにくいぐらいの熱い気持ちで頑張っていきたいなと思います。
(ニュースレター編集部 久保 友美)

次号予告
みどりの
ニュースレター
No.159
2006年
8月号

現在
編集中!

特集：夏休み特集
エコロジカルな遊び
夏休み号として、誰もがどこでも気軽に子どもと実践できるエコロジカルな遊びやヒント、自由研究にも使えるような環境学習のヒントなどを一挙公開！お楽しみに。

今月のありがとう!

目立たないところでも、
お力を貸してくださった方々に、
感謝をこめて。
(敬称略)

5月号ニュースレターの発送

窪井 千鶴子 / 久保 友美 / 久保 浩 / 佐々木 陽子
城間 貴之 / 羽野 和幸 / 三谷 齊 / 村中 梨紗
安江 晃子

事務局作業のお手伝い

久保 浩 / 寺西 孝一郎 / 吉田 佳代
《五十音順・敬称略》
ご協力、ありがとうございました!

新会員の方々

5月16日から6月13日

伊奈 正和 中原 秀樹
川本 充 西尾 紀子
瀬島 奈保子
竹内 清
田中 友美子
寺西 孝一郎

寄付

5月16日から6月13日

風岡 宗人
川島 奈美
工藤 聖子
下村 委津子
杵本 育生
堀 孝弘

ありがとう
ございました!

新入会員 * INTERVIEW

■西村 紀子さん(5月22日入会)

ちょうど環境に関するボラン
ティアを探していたとき、名古屋市内
のボランティアセンターで環境市民を知りま
した。まだ入ったばかりで分からないことだ
らけですが、これからいろいろな活動に積極
的に参加して勉強していきたいと思ひます。

環境市民に入会しよう!

環境市民は、多くのボランティアと会員の皆さんの参加によって支えられています。
「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ会員になって環境市民の活動を応援してください!

■ 会員特典

- 月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。
- 行事などの参加費を割引させていただきます。
- 会員専用ブログ「ボランティア広場」への参加ができます。
- 環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。

■ 会費の振込み方法

- 郵便振替の振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・
送金内容事項をご記入の上、「年会費+入会金」をご入金ください。
(※シニア・学生・助成・特別助成会員は入会金不要)
- ご入金を確認後、最新のニュースレターと会員バッジ、入会記念と
してポストカードをお届けします。

会費

種別	年会費	入会金
個人会員	4,000円	1,000円
ペア会員	6,000円	2,000円
シニア・学生会員	3,000円	—
ファミリー会員	8,000円	2,000円
助成会員	10,000円	—
特別助成会員	50,000円	—
終身会員	一括 80,000円	—
営利法人会員*	1口 50,000円	50,000円
非営利法人会員*	1口 10,000円	2,000円

*年会費は一口以上

~あなたのご協力が環境市民を支えます~

♥ 寄付をする... 住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上、下記の振込先へお振り込みください。

会費・寄付のお振込み先 【郵便振替】口座番号：01020-7-76578 加入者名：環境市民

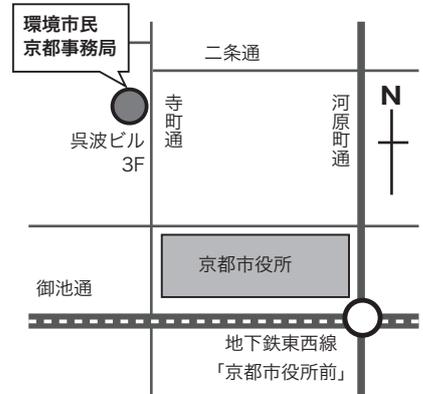
(発行) 特定非営利活動法人 環境市民 (代表) 塚本 珪一・杵本 育生 (発行人) 堀 孝弘
【TEL】075-211-3521 【IP 電話】050-3581-7492 【FAX】075-211-3531
【E-mail】life@kankyoshimin.org 【URL】http://www.kankyoshimin.org
〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル呉波ビル3階 (月から金 午前10:00から午後6:00)

環境市民 東海事務所

【TEL&FAX】052-521-0095 【IP 電話】050-3604-6182
【E-mail】tokai@kankyoshimin.org 【URL】http://www.kankyoshimin.org/tokai/
〒451-0062 愛知県名古屋市中区花の木1丁目12-12 花の木 AOIビル4階

環境市民 滋賀事務所

【TEL】077-522-5837 【E-mail】cefshiga@kankyoshimin.org
〒520-0046 滋賀県大津市長等2丁目9-12 笠文彦気付



本誌の無断複写・複製・転載を
禁じます。

「環境市民」
登録商標 第4809505号

この印刷物は風力発電による自然エネルギーを使用して
古紙配合率100%再生紙に、大豆油インキで印刷しました。



印刷：(有) 糺書房
古紙配合率100%再生紙を使用しています



環境市民

Citizens Environmental Foundation

21世紀
地球を、地域を、生活を、
持続可能な豊かさに

